

全国青年税連

追悼号

11月27日
午後9時40分
急 逝

溝田澄人先生を悼む

無念されど安らかに



〔略歴〕

- 明治三十九年 大分に生れる(65才)
- 昭和十三年 中央大学大学院修了
- 昭和二十六年 税理士登録
- 昭和三十六年 東京税理士会副会長(以来二期)
- 昭和三十七年 日本税理士会連合会副会長兼専務理事
- 昭和三十九年 同連合会税理士法改正推進本部長
- 昭和四二年 專業税理士協議会会長
- 同 年 東京税理士会会長
- 昭和四四年 日本税理士会連合会会長
- 昭和四五年 国税審査会委員

前日本税理士会連合会会長、前東京税理士会会長、前国税審査会委員であった溝田澄人先生は、十一月二十七日午後九時四十分東大病院で脳卒中で急逝された。

二十九日午後六時より溝田先生のご自宅でお通夜が行なわれ、翌三十日午後一時から同所で、しめやかに告別式が始まり、木村日税連会長その他の弔辞、税理士会会員多数が焼香した。

全国青年税理士連盟は村田会長増田、村山、小川の副会長、吉原広報部長が代表してお通夜と告別式に出席し、盛花をご仏前にささげた。

「新しい時代の税理士会を築こう」をモットーとして税理士会の民主化に努力し、昭和三十七年には日税連の副会長就任以来、法改正運動に全力を傾注した。

とりわけ、商法改悪反対運動には日夜、先頭に立って指揮した。先般の東京税理士会の会長選挙で惜敗し、「巨星落つ」と評されたりもしたが、ついに、今まで、はりつめていた糸が切れたかの如く、二十七日の夜、功なかばにしてこの世を去った。

溝田先生がよく口にしていた「若い人の為に」という言葉が永久に聞かれなくなった。残念。

清流

◆前日税連会長・溝田澄人先生の御逝去は、我々、青年税理士にとつて、大きな衝撃であった。

溝田澄人先生は、単に我々の日税連会長として、日夜重責に奮励されておられたばかりでなく、常に我々青年税理士のよき理解者であり、よき支持者であり、青年税理士の心の象徴であった。

◆人の功罪は棺を覆うて定まるとか、いま我々は、故人の築かれた税理士界内外における業績を顧みるとき、その偉大な影響力に畏敬の念を禁じざるを得ない。

♥我々は、ここに全国青年税理士連盟一同を以って、溝田澄人先生の生前の御協力、御交誼に深く感謝申し上げ、御精霊の安らかなる御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

◆いま溝田先生は、冬空の星となつて、夜空に去られた。今後、我々がなすべきことを、いつまでも見守っていてくれるであらう。

我々は、その星の輝きを見失ってはならない、進むべき道は、ただ一つである。

惜別の辞

会長 村田 昭

人の常とは云え、余りに早く突然に溝田人生は幕をとしてしまった。税理士制度の発展強化の爲に命までかけた人生だった。

十一月二十七日の午後、危篤の知らせをうけて東大病院にかけつけ、その時は面会謝絶であったが会うことが出来た。苦しそうであった。無念そうであった。

東大病院・北病棟七階十四号室

昭和四十四年十二月四日、翌日は商法改悪反対総決起大会の前日、全国青税連の幹事会に出席された溝田会長は、「私は大学の講師をしているので、理論的分野でも皆さんに負けない」と挨拶されたがこの時ほど若さを感じたことはなかった。

先生は学生結婚で、卒業時には四才の子持ちだったとか。

アルバイトをしつつの学生時代

だったとき。

趣味は読書、謡曲、スポーツは剣道で特に野球は大好きであっ

これが最後の部屋であった。

その日、夜八時頃まで病院に居り、家族の気持を考えて、近くの友人の事務所で落着かないひとときを過ごしていた。十時前に、悲報が入り、東大病院へ。

痛む心を去来するものは、男。溝田の人生をふりかえって、功なかばにしての終幕であり、ただただ「無念」の一言であった。

た。そして、若い税理士達と酒のみ、夜遅くまでつきあい、ざっくばらんで純粋な男で行動力に富み生真面目そのものであった。全国青税連の公式の席上での最

溝田澄人先生を偲ぶ

後の言葉は、第四回定時総会での「社会の発展は青年の若き力と情熱に負うところ大なるものがあります」となっていました。

東京税理士会の会長に担ぎ出されたのは、当時身体を悪くしていたが、君が会長にならなければ大変なことになると半ば強迫気味に

かえすがえすも残念なのは、五月二十日の東京税理士会の会長選挙で当選させ、たとえ、短期ではあっても、もう少し、溝田構想を

税理士会に植えつけたかった。惜敗そして急死。話しによると精密検査を受ける目的で入院、結果が判明しない内の最後だった。

七月の総会には日税連会長として出席を賜り、私は、溝田澄人先生の反骨精神を学びとり、新しい時代にマッチした「近代青税連」への道を進みたいと述べた。

一言でよいから、今後の税理士会の進むべき道を教えてもらいたかったし、何をやり残したのかを

聞きたかった。

先日、電話で二月九日の日税連正副会長会の様子を伺ったのが、本当に最後の声であった。

私が会長として初めて列席する告別式が、まさか溝田澄人先生とは…。

筆を走らせていても書きたいことがまともらず要領を得ないが、この悲運を乗り越えて大きく税理士会を発展させることが、我々の出来る、そしてしなければならぬ唯一の溝田澄人先生に対する冥福の誓いであろう。今となれば、安らかに、安らかにと合掌するのみである。

かつがれたとき。数々の功績の出発点はこの辺らしい。

自由職業人業界随一の偉容をはこる税理士会館は先生の物的功績の一つで永久に語り草となろう。

商法改悪阻止の種々の施策はこれ又、永遠に人の心に残るだろう。

先生が酒に酔って、しみじみと唄を聞かせてくれたことがあったが、唄う先生を知る人は少ないと聞く。心の支えを失ったが、天にあつて税理士会の発展をみつめられんことを。

編集後記

税理士会の巨星、溝田澄人先生が亡くなりました。

日税連会長として、新しい時代の税理士会確立を目指し、商法・税理士法改正…にと、文字どおり日夜をあげ全力を尽くした反骨あふれる硬骨漢、溝田先生のお姿に接することが出来なくなりました。あの人間味豊かなお顔も、見られなくなりました。

われわれ全国青税連としても、先生の反骨精神を学びとともに、今後に向い大いなる責任を感じざるを得ません。

ここに溝田先生の生前の輝かしき業績を偲ぶとともに、つつしんで哀悼の意を表する為に、追悼号をお届けしました。

溝田先生 安らかに！

(広報部)

全国青年税理士連盟

東京都目黒区砂谷1丁目19番13号
電話 (03) 716-5382・7563
連盟本部 発行人 編集人 印刷所
理事 村田昭 事務 昭一
副理事 田村昭 事務 昭一
会長 村田昭 事務 昭一
副会長 田村昭 事務 昭一
広報部長 吉原信
本部長 田村昭